


がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室





退職のご挨拶

副院長 ^{まつうら} **松浦** ^{かずと} **一登**

平成16年4月に宮城県立がんセンターに入職以来、15年が経ちました。思わぬ経緯で、この4月から国立がん研究センター東病院頭頸部外科長として赴任することになりました。かつて従事していた職場ですが、先方より日本の頭頸部癌治療のかじ取りをしてほしいとの依頼を受けました。今の環境は仲間に恵まれ、とても良いものであり、ずいぶんと悩みましたが、「お国のために」働こうと決心しました。

西條理事長が立ち上げられ、館田科長（現・仙台医療センター）を経て3代目を務めました。名称も変わり（耳鼻いんこう科→頭頸科→頭頸部外科・内科）、総勢9名の所帯となりました。国内の主だった施設として名を連ねるようになり、全国から研修医を受け入れ、患者さんも東北6県から来られます。「患者さんのための医療を行い」「情報発信する」ことが当科のモットーであり、今後、浅田科長の下で更なる飛躍をされると信じています。

副院長としての職務は短期間でしたが、昨年開催させていただいた宮城県立がんセンター創立25周年記念式典は良い思い出となりました。今後は、中央と宮城の懸け橋となれるよう頑張りたいと思います。最後に、皆様のご健康とがんセンターの益々のご発展を祈念して挨拶とさせていただきます。

外来新患診療体制表 2019年3月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●			●
腫瘍内科		●		●		
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科				●		
緩和ケア内科				●		●
呼吸器外科			●	●		●
消化器外科			●	●		●
乳腺外科	●				●	
整形外科			●		●	●
形成外科			●			●
脳神経外科	●			●		●
泌尿器科	●			●	●	
婦人科	●		●		●	
頭頸部外科	●		●		●	
放射線治療科	●		●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 桜交 **R 交通** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
仙南交 **通** 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分
 ○TEL (022) 381-5152 (直通)
 (022) 384-3151 (代) 内線123
 ○FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
 〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

血液内科の紹介

血液内科診療科長 ^{はらざき} **原崎** ^{よりこ} **頼子**

当科は県南地区唯一の血液疾患治療施設として白血病、悪性リンパ腫等の悪性腫瘍のみではなく、特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) や、再生不良性貧血等、ひろく血液疾患の診断、治療を行っております。先天性凝固因子欠乏症等の当院では診断が難しい疾患は、東北大学血液免疫科関連病院と連携をとりながら診断、治療をおこなっております。

入院は6階血液内科病棟50床を佐々木、原崎、鎌田の3人で担当しております。血液内科病棟は、6床のクリーンルームと8床のセミクリーンルームを備え、患者さんの病状に合わせて適切な療養環境を提供しています。

2017年度の入院患者数は253名、総入院回数は673回でした。当科は、臨床試験グループのJALSG (日本成人白血病研究グループ)、JSCT (日本細胞移植研究会) 等臨床試験グループに参加し、臨床試験にも積極的に参加しております。進歩の著しい血液内科分野において、新薬や抗体治療も積極的にとりいれて、先進的な治療を行っております。その一方で血液疾患は高齢の患者さんも多く、患者さんお一人お一人に合わせた治療を検討する必要も増えております。患者様の全身状態にあわせた治療、低用量化学療法も行っております。

2017年度の造血幹細胞移植は同種造血幹細胞移植が7例、自家末梢血幹細胞移植が15例でした。また、当院は日本骨髄バンク、日本臍帯血バンクの療法の認定をうけており、血縁、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植も可能な施設となっております。

外来は、佐々木、原崎、鎌田、小野寺、市川で担当しております。2017年度の外来総数は7811名、新患数は320名でした。

新患は、月曜日 (原崎/鎌田)、火曜日 (小野寺)、金曜日 (市川) で受け付けておりますが、緊急の場合には、地域連携室を通してご連絡いただければ、対応させていただきます。また、血液内科外来受診が望ましいかどうか判断が難しい患者様についても、お電話でお問い合わせいただければ幸いです。

今後もこの地域のお役に立てるように努力してまいりますので、よろしく願い申し上げます。



向かって左より、鎌田・原崎・遠宮 (臨床検査科診療科長)・佐々木

地域の期待に応える がん専門病院の看護部としての役割

看護部長 星 久美



未曾有の大震災から8年が過ぎ、がんセンターのあるこの名取市沿岸部も少しずつ賑わいを取り戻してきたように感じます。被災された皆様、復興に尽力された皆様のご苦勞は、言葉には言い表せないほどのものだと思いますが、皆様の努力がここまでの復興を成し遂げたのだと力強さを感じながら、以前よりもっと活気ある宮城県沿岸部になっていくように、同じ沿岸部に居を構える者として一緒に頑張りたいと思っています。

さて、がんセンターも大震災のあった2011年4月に地方独立行政法人として運営形態を変え、がん医療に求められる様々な課題に対応しながら、がん専門病院としての使命を果たすべく、先進的かつ患者さんやご家族に寄り添う温かな医療を提供しようと職員一丸となって奮闘してまいりました。職員一丸となる力は、失ったものが多い中であって大震災がもたらしてくれた大きな収穫だと思っています。また、去年はがんセンター25周年という節目を迎え、職員個々が気持ちを新たに自分たちの役割に取り組んでおります。

このような中、今年5月には慣れ親しんだ平成という元号が変わり、新しい時代になり、時代と共に医療や看護に求められるものがさらに大きく変化していくことと思います。昨年、国は第3期がん対策推進基本計画の3本柱“がん予防”“がん医療の充実”“がんとの共生”を打ち出し、これらを支える基盤の整備として“がん研究”“人材育成”“がん教育・普及啓発”が挙げられています。当センターでも、国の掲げた～がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す～という大きな目標に向かっていきます。しかし、どんな時代になっても看護として大切にすべきことは、「看護の対象者は様々な疾病を持ちながら生活する存在である」ということです。特にがんと診断され、不安を抱えている患者さん達にも生活があり、日々暮らしていかなければなりません。そしてその日々の暮らしは、在院日数が短くなっている現在「ほとんど在宅、時々入院」と言われるように、患者さん達を丸ごと捉えて看護を提供するのは、病院の中だけではなくなくなったということも又、医療に携わる者なら誰もが周知するところだと思います。

今回は、がんセンター看護部が、地域で看護に携わる看護職の皆さんと共に学びながら、患者支援の向上に繋げていきたいと考えている取り組みを紹介いたします。

❖ 看護部公開研修会 《直近2年間の看護部公開研修会の内容》

看護部公開研修会は、最近の2年間は地域の皆様からの要望の多い、がん患者の症状マネジメントや感染症など「高齢がん患者の看護」に焦点を当てて企画しました。参加していただいた方の多くは、訪問看護ステーションの看護職、在宅医療を提供しているクリニックの看護職等、地域医療を支えている看護職の方々でした。このことから、がんを抱えながら地域で生活している患者さん達を支えておられる看護職の皆さんのニーズが高いと考えておりますので、これからもがんセンター看護部が持っている知識・技術を提供しながら、皆さんと一緒にがん看護について考える時間を共有していきたいと思っています。

	月 日	テ ー マ
12回	H29. 7月	高齢がん患者の看護 Vol. 1
13回	H29. 11月	Vol. 2 せん妄、症状マネジメント 他
14回	H30. 7月	Vol. 3 在宅における食支援と栄養管理 他
15回	H30. 11月	Vol. 4 患者・家族の意思決定を支えるコミュニケーション 他

看護部公開研修会は、最近の2年間は地域の皆様からの要望の多い、がん患者の症状マネジメントや感染症など「高齢がん患者の看護」に焦点を当てて企画しました。参加していただいた方の多くは、訪問看護ステーションの看護職、在宅医療を提供しているクリニックの看護職等、地域医療を支えている看護職の方々でした。このことから、がんを抱えながら地域で生活している患者さん達を支えておられる看護職の皆さんのニーズが高いと考えておりますので、これからもがんセンター看護部が持っている知識・技術を提供しながら、皆さんと一緒にがん看護について考える時間を共有していきたいと思っています。

❖ 看護外来

都道府県がん診療連携拠点病院の緩和ケア推進を図るため、「緩和ケアセンター」を設置し、平成27年11月から看護外来も開設しました。がん専門看護師や認定看護師などがん関連の認定看護師によるがん看護カウンセリングを行うことで、患者・家族の皆さんのニーズを拾い上げ、生活をする上でのQOLの維持・向上を目指しております。がんの患者さん全体に対応できる「がん看護外来」、各疾患・治療ごとの特徴にも対応できる「乳がん看護外来」「がん化学療法看護外来」、平成30年11月には「がん放射線療法看護外来」を開設しています。開始時から平成30年11月末までの看護外来の総対応件数は、延べ521件、うち男性24.7%、女性75.3%でした。患者・家族の皆さんの不安の軽減、治療の選択における意思決定支援、症状緩和への介入などに対応しています。まだまだ、周知不足なところもありますが、今後も患者さんやご家族の支援に努めたいと思います。

❖ 看護部出前講座

昨年より、看護部独自での出前講座を始めております。看護部公開研修会に参加できない皆さんや、施設や事業所の職員全員で参加したいなどの要望に応じて、依頼された内容に応じて、専門看護師・認定看護師の持つ専門分野の知識・技術を出前で提供しています。去年は3つの事業所から計4回ご依頼を受け、施設に伺っています。どうぞお声がけください。

最後に、今後ともがん専門病院の看護部として、地域の皆様とがん看護について考え、学び合い、刺激し合って成長し、地域の皆様に質の高いがん看護を提供できる存在でありたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

《 専門・認定看護師の紹介 》

私たちの専門性を皆さんにお届けします。お気軽にお問い合わせください。

<p>感染症看護専門看護師</p>  <p>菊 地 義 弘</p>	<p>皮膚・排泄ケア認定看護師</p>  <p>服 部 知 江</p>	<p>緩和ケア認定看護師</p>  <p>佐々木 晴 美</p>	<p>がん性疼痛看護認定看護師</p>  <p>早 坂 利 恵</p>	<p>がん放射線看護認定看護師</p>  <p>熊 谷 直 美</p>
<p>がん看護専門看護師</p>  <p>佐々木 理 衣</p>	<p>皮膚・排泄ケア認定看護師</p>  <p>鈴 木 藤 子</p>	<p>がん化学療法看護認定看護師</p>  <p>高 子 利 美</p>	<p>乳がん看護認定看護師</p>  <p>船 水 まり子</p>	<p>摂食・嚥下障害看護認定看護師</p>  <p>岩 佐 昭 仁</p>
<p>がん看護専門看護師</p>  <p>熊 谷 香 織</p>	<p>緩和ケア認定看護師</p>  <p>鈴 木 美 穂</p>	<p>がん化学療法看護認定看護師</p>  <p>門 馬 仁 美</p>	<p>乳がん看護認定看護師</p>  <p>五安城 芙由子</p>	